

# 経血管性造影検査に関する説明書

今回、病気の状態を詳しく調べるために、血管内注射による造影剤を用いた検査が必要となります。そこで、造影剤の必要性和副作用について説明いたします。

## ◎造影剤使用の必要性

1. 身体に病気が存在するのか、そうでないのかをはっきりさせる。
2. 病気の性質を知る。
3. 病気の広がりや、進み具合を知る。

## ◎造影剤の副作用と頻度

1. 皮膚症状 : かゆみ・発疹・発赤・じんましん(0.4~0.5%)
2. 消化器症状 : 悪心・嘔吐・腹痛・下痢(0.02~1%)
3. 循環器症状 : 動悸(0.01%)
4. 重大な症状 : 呼吸困難(0.04%) 急な血圧低下(0.01%)
5. 重篤な場合 : 死亡等(40万人に1人)  
(造影剤との因果関係が不明なものも含む)

## ◎副作用に対する対応

症状が軽微な場合は、しばらく様子を見る事もありますが、中等度の場合は、点滴を継続する場合があります。重大な副作用の場合は、気管内挿管などの処置を行う必要があります。

又、検査後1時間以降7日程度までに起こる遅発性副作用も発生します。(MRIでの遅発性副作用の報告はありません)

以上ご理解の上、別紙承諾書への署名をお願いします。